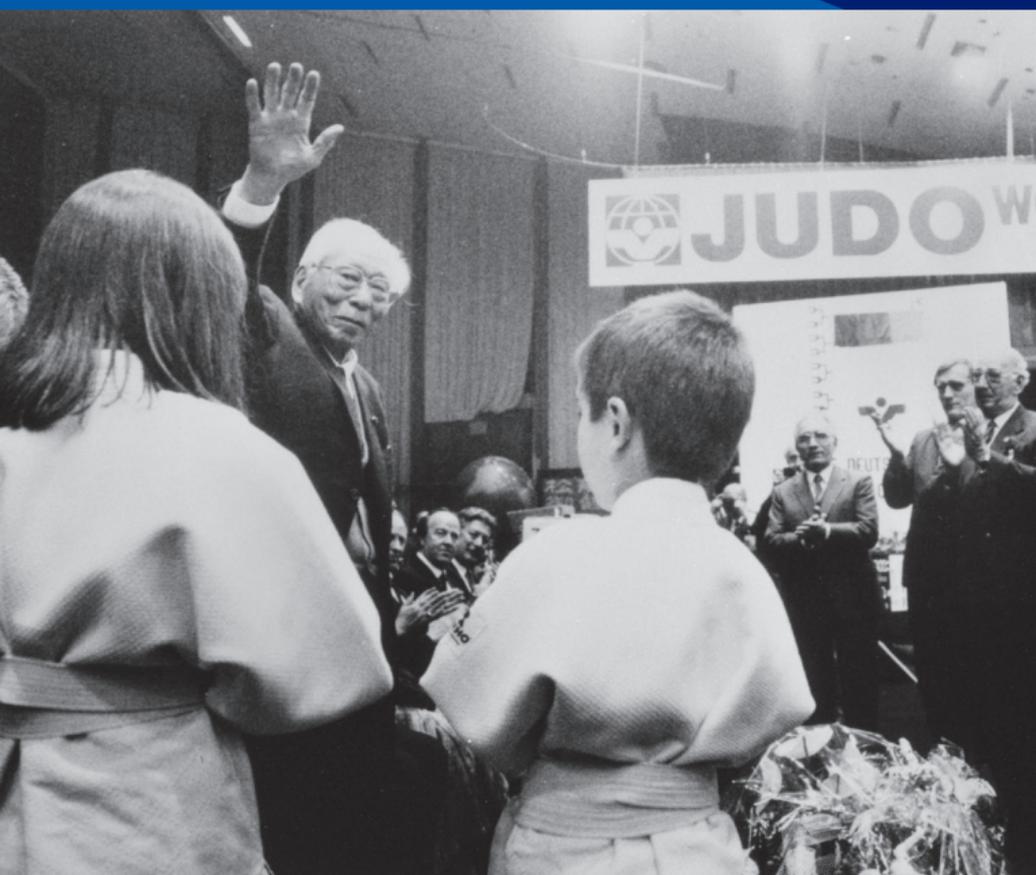


# 東海大学の スポーツによる 国際交流



Think Ahead, Act for Humanity  
～先駆けであること～

# スポーツを通じて 世界の平和と友情を

学校法人東海大学は、スポーツを通じて国家間の友情を育むという、創立者松前重義（1901年-1991年）の平和への思いを受け継ぎ、国際活動を展開しています。

松前は「真に平和な社会を築くことは、現代文明の第一の課題である」と述べています（松前重義『現代文明論』東海大学出版会）。松前は思想的影響を受けた内村鑑三の「非戦論」に共感し、日本の生産力をアメリカと比較した科学的データを基に戦争に反対しました。しかし、そのことで軍部により二等兵として戦地に送られ、より一層世界平和を願うようになり、その実現を決意しました。しかし、戦後、世界は東西対立の時代に入ります。

このような国際的緊張状態の中、松前は民間外交に努力しました。日本対外文化協会を設立（1966年）し、学術・文化・スポーツ交流を通じ相互理解を深めようとしたのです。

そして当時、我が国において唯一、ソビエト連邦や東欧諸国との交流窓口が東海大学に開かれたのでした（東海大学湘南校舎でもボリショイ・バレエの公演などが行われました（1966年））。

松前が国際柔道連盟（IJF）の会長を務めたのも、野球をオリンピック種目にするための活動を行ったのも、スポーツを通じた「平和」の実現を願ってのことでした。松前は、次のように述べています。「スポーツは人類平和の先駆者である。人類が切望し続けている国際平和実現のための使命をスポーツは担っている。これは大きな哲学的使命である」（1984年6月20日付 東海大学新聞）



2016年にリオデジャネイロで開催された第31回オリンピック競技大会・第15回パラリンピック競技大会で6名の学園関係者がメダルを獲得しました（金：3個、銀：1個、銅：2個）。（写真は大会後に湘南校舎で開催したオリンピック報告会の様子）

## EP.1 : 学園オリンピックで青少年育成

学園が推進する一貫教育プログラムの中でも、半世紀にわたって実績を築いているのが「東海大学学園オリンピック」です。これは、東京オリンピック（1964年）に先駆けて、同年8月に全国の附属諸学校が、東海大学湘南校舎に一堂に会して競い合うスポーツ大会として始まったものです。現在は、スポーツ部門と文化部門（8部門）の計9部門で開催しています。

この「学園オリンピック」は、学園の創立者松前重義が掲げた教育の指針である「若き日に汝の思想を培え」「若き日に汝の体軀を養え」「若き日に汝の智能を磨け」「若き日に汝の希望を星につなげ」という四つの言葉のもと、勝ち負けにこだわることなく、才能あふれる附属諸学校の生徒たちが相互に刺激し合い、切磋琢磨しながら人間的に成長していくことを企図しています。これは、近代オリンピックの生みの親であるピエール・ド・クーベルタン男爵が提唱する「オリンピズム」に通じるところがあります。

このような取り組みを通じて、生徒たちはお互いの友情と豊かな人間性を育んだ上で、国際交流を担う人材として社会で活躍しています。



第1回学園オリンピックの様子（1964年）



現在では全国から2,000人を超える選手が集う

## EP.2 : 武道のよき理解者として

少年時代から柔道に熱中した松前は、日本武道館の建設（1964年）や国際武道大学の開学（1984年）を実現させるなど、武道の社会的展開に大きく貢献しました。日本武道のよき理解者として、また特に戦後の武道復活と振興に国際的視野に立って尽力したことでも知られています。

日本武道館は東京オリンピック（1964年）の開催を契機に設立されましたが、松前は設立準備段階から役員として参画し、1975年からは（財）日本武道館会長として武道関係組織の設立、武道の学術研究、武道教育の推進などに指導力を発揮しました。1974年、東海大学柔道チームを率いて、デンマークを中心にヨーロッパ諸国を歴訪した松前は、「日本が生み出した広い意味での文化のなかで、世界に最も自然にそして広く受け入れられているのは、柔道ではないか」との思いを強くし、「日本に対する国際的な理解を発展させるために、柔道の普及ということは重要な意味をもつ」と確信するに至りました。



湘南校舎武道館にて(1969年)

## EP.3 : 国際柔道連盟会長として

スポーツ・武道などの身体運動を通して、人は友情を育むことができます。松前はそのことをよく理解し、実践にあたりました。その松前の国際活動を代表するものが国際柔道連盟 (IJF) 会長 (1979年-1987年) としての諸活動でした。



IJF 会長に就任 (1979年)

1979年12月、IJFの総会で会長に選出された松前は、国際オリンピック委員会 (IOC) のオリンピック運動と軌を一にしながら組織改革を行い、段位認定制度を確立し、女子柔道のオリンピック参加を実現させました。また、松前の提唱のもと、（財）日本武道館が千葉県勝浦市の熱心な誘致を受けて推進した国際武道大学の設立 (1984年) は、武道教育を通じた国際貢献の新たな一歩となりました。

松前は世界各国が優秀な日本人武道指導者を求めているという現実を踏まえ、人材育成によって国際友好親善を深め世界平和に寄与したいとの理想を掲げて国際武道大学を開学し、自ら学長に就任して教育・研究の先頭に立ちました。

## EP.4 : 野球を世界に !!

松前は「私は柔道が専門であるが、野球も好きであり、野球を通じての友達もたくさんいる」と述べています。その友人の一人である大リーグ ドジャースの元オーナー、ピーター・オマリー氏から、アメリカで生まれた野球がオリンピックの正式種目になるように、ソビエト連邦・東欧諸国に働きかけてもらいたいとの交渉依頼を受けました。日米学生野球選手権世界大会の団長としてロサンゼルスを訪れた1975年6月のことです。

そして松前は、ソビエト連邦で野球を普及させるため本学園と交流のあるモスクワ国立大学に野球場を建設することを提案。これに賛同した学園関係者や多くの人々の協力で1989年「モスクワ大学松前記念スタジアム」が完成しました。同スタジアムでは、松前の提唱で日米中ソの4カ国の学生による国際親善野球大会を開催。また、東海大学野球部などが中心となり、選手育成、指導者交流を行うなど、野球の国際化に尽力しました。こうした活動を背景として、1992年のバルセロナ五輪で野球はオリンピック正式種目となりました。



モスクワ大学松前記念スタジアムで開催された国際親善野球大会（1989年）



モスクワ大学松前記念スタジアムのオープニングセレモニー（1989年）

学園のさまざまな取り組みや情報は、  
以下のコンテンツをご覧ください。

YouTube

## 学園紹介ムービー

創立者松前重義の理念と学園の使命を基盤として、これまで取り組んできた事業について紹介する動画「建学75年の歩み篇」と、建学100周年に向けた学園の総合戦略であるマスタープランの内容を紹介する動画「学園マスタープラン篇」があります。

### 『建学75年の歩み篇』



### 『学園マスタープラン篇』



## 学校法人東海大学オフィシャルサイト

学校法人東海大学



<https://www.tokai.ac.jp/>

各種コンテンツごとにご覧になりたい方は、こちらをチェック！



◀ 『学園のニュース・トピックページ』

<https://www.tokai.ac.jp/news/>

『先駆け物語』 ▶

<https://www.tokai.ac.jp/about/sakigake/>



◀ 『今日は何の日～あの日々のTOKAI～』

<https://www.tokai.ac.jp/about/playback/>